

# 糸

一年

画数 6  
筆順 くゞ糸  
オン シ  
クン いと

成り立ち



「いと」は、まゆいとをなんばんもよりあわせてつくりまします。「糸」という字は、まゆいとをよりあわせたかたちをあらわしたもので、「いと」ということばをあらわした字です。

「いとのようにほそい」といういいかたがありますように、「ほそい」ようすをあらわすのにつかわれます。また、「いとをはったがつき(げんがつき)」のいみにつかうことがあります。

使い方

- ▽この「糸まき」の「糸」は「生糸」です。
- ▽あそこに見えるのは「製糸こうじよう」です。
- ▽むかしの人は、おんがくのことを「糸竹」のたのしみといいました。

熟語例

- ▽糸まき(糸をまいておくものこと。糸をつかうときにそれをほどこいます。)
- ▽生糸(まゆからとったばかりの、まだあくのゆでにてやわらかくしていない糸のことをいいます。まだ練られていない糸。また、「まゆからとれた糸」「きぬ糸」のいみにもつかわれます。)
- ▽糸口(糸のはし。いちばんはじめのところですから「ものごとのはじめ」手がかりのいみにもつかわれます。例)げんをかいつする糸口を見つけた。このことばを一字であらわした「緒」という字もあります。)
- ▽製糸(糸を製造すること。紙を製造する「製紙」とまぎらわしいので、つかうときにちゆういすること。)
- ▽糸竹(糸をはった弦楽器と笛の管楽器のことです。「おんがく」といういみにつかわれます。)

# 字

一年

画数 6  
筆順、ハム字  
オン ジ  
クン あざ

成り立ち



いえのなかに「あか子」がいるかたちをあらわした字で、「子をうむための「さんしつ」をあらわしたものです。「子をうむ」「子がふえる」といういみの字でしたが、「くみあわせによってつくられた字」のことをいうようになりました。

むかし、はじめてつくられた「山」や「川」や「人」や「字」という字は「字」といわず、「文」といいました。そののち、「文」と「文」とをくみあわせるほうほうをつめいしましたので、どんどんふえました。それでこれを「字」といい、「文」と「字」とをあわせて、「文字」というようになりました。「字」は「文」の子どもであり、「文」は「字」のおやというわけです。

使い方

- ▽ことばをめにみえるかたちにしたものが「文字」です。だから、文字は「めでみることば」ということができてます。

▽じゆうしよは、「小字」までかいたほうがよろしい。

熟語例

- ▽文字(ことばはさきえてのこらないので、めにみえるふうにしてあらわしたものの。わがくにでつかう文字には、漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字、アラビア数字などがあります。)
- ▽漢字(中国ではつめいされた文字。漢ていこくじだいにいまのかたちになりました。文字のなかつたわがくには、漢字をかりてつかい、また、漢字からひらがな、カタカナをつめいし、いまの「漢字かなまじり文」のもとをつくりました。)
- ▽字画(漢字をつくる「せん」や「てん」のこと。また、そのかず(画数)のこと。)
- ▽字(まちやむらをおおきくわけした「大字」と、それをさらに小さくわけた「小字」とがあります。)

参考